

稚内港湾事務所 平成30年度 人事院総裁賞を受賞

～我が国最北の地方港湾 宗谷港での低潮線の巡視業務～

北海道開発局稚内開発建設部稚内港湾事務所では、我が国最北の地方港湾である宗谷港の港湾区域内に位置する低潮線の保全を目的とする巡視業務を実施しています。このたび、排他的経済水域等を確保するために厳しい自然環境の中で地道ではありますが着実に巡視業務を遂行していることが評価され、平成30年度の人事院総裁賞（職域部門）を受賞することが決定しましたので、お知らせします。

なお、北海道開発局では、平成5年度に受賞した網走開発建設部鹿ノ子ダム管理所以来25年ぶり2例目の受賞となります。

排他的経済水域は、国土の狭い我が国にとって貴重な海洋エネルギー・鉱物資源の開発や水産資源の利用を排他的に行える場となっています。低潮線は排他的経済水域等の幅を測定するための基線となるため、排他的経済水域等を確保するためにはその確実な保全が重要になります。

稚内港湾事務所は、宗谷港港湾区域内に位置する3か所の低潮線保全区域について、作業環境が特に厳しくなる冬期を含めた年間を通して海上や陸上からの巡視業務を実施しています。

1 受賞者

国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

2 授与式

授与式は人事院により次のとおり執り行われます。

・日時 平成31年2月14日（木）11：30～

・場所 明治記念館（東京都港区元赤坂）

式後、天皇皇后両陛下の御接見を賜る予定です。

※人事院総裁賞とは、多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる職員（一般職の国家公務員）又は職域を顕彰するもの（昭和63年創設）。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

〈表彰の内容に関すること〉

港湾空港部 港湾建設課 建設第1係長 寺田 卓史（011-709-2311 内線 5624）

稚内開発建設部 稚内港湾事務所長 富澤 進一（0162-33-2758）

〈表彰式に関すること〉

開発監理部 人事課 人事企画官 横田 康弘（011-709-2311 内線 5212）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



職域部門③ 国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所
 《我が国最北の地方港湾において厳しい気象・海象条件の中、低潮線の巡視に尽力》

名称・所在地・代表者・沿革等	組織の概要等
<p>国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所</p> <p>北海道稚内市末広 4 丁目 5 番33号</p> <p>稚内港湾事務所長 <small>とみさわ しんいち</small> 富澤 進一 (事務所長以下15名)</p> <p>昭和25. 6 北海道開発庁設置 昭和26. 7 北海道開発庁北海道開発局設置 昭和26. 12 稚内港修築事業所設置 昭和47. 5 稚内港湾建設事務所に名称変更 平成13. 1 国土交通省北海道開発局設置 平成16. 4 稚内港湾事務所に名称変更</p>	<p>国土交通省は、国土の総合的かつ体系的な利用、開発及び保全、そのための社会資本の統合的な整備、交通政策の推進、気象業務の発展並びに海上の安全及び治安の確保などを行っている。</p> <p>北海道開発局は、昭和26年7月に北海道開発庁の地方支分部局として設置され、北海道内を所管区域として、河川、道路、港湾、農業、営繕事業等を担当してきた。更に平成13年(2001)1月の国土交通省設置により、各種自治体実施の事業についての認可・助成等を通じて社会資本整備等に対する連携を深めている。</p> <p>稚内港湾事務所は北海道開発局の下部機関として物流、人流等の円滑化、活性化により日本の最北に位置する宗谷地方の人々の暮らしや産業を支えるため6港湾(稚内港、宗谷港、枝幸港、鴛泊港、杓形港、香深港)、1空港(稚内空港)、4漁港(東浦漁港、抜海漁港、仙法志漁港、礼文西漁港)の計11港の施設整備や保安・保全等に関する業務を実施している。</p>

顕彰理由

宗谷海峡を隔ててロシア・サハリンと対峙する位置にある我が国最北の地方港湾・宗谷港は、その港湾区域内に3箇所の低潮線保全区域を有している。宗谷港周辺は冬期に氷点下の気温、強風、吹雪や波浪等の厳しい自然環境に見舞われるが、稚内港湾事務所は一年を通じて排他的経済水域等の基礎となる低潮線的人為的損壊行為や自然浸食による形状変化を海上及び陸上から巡視し、排他的経済水域の確保に努めている。

以上、厳しい自然環境下にある国境に面した低潮線保全に関わる職務を地道であるが着実に執行し、国民の共有財産である排他的経済水域の確保に寄与している。

理由詳細

1 職務の内容・重要性

宗谷港は宗谷海峡を隔ててロシア・サハリンと対峙する位置にある我が国最北の地方港湾であるが、稚内港湾事務所は宗谷港港湾区域内に存在する3箇所の低潮線保全区域について港湾業務艇による海上巡視を行うなど、平成23年度から予備調査も含めて7年間、低潮線保全に関する職務に従事している。

我が国は四方を海に囲まれた海洋国家であり、国土面積が約38万km²（世界第61位）であるのに対して、領海と排他的経済水域を合わせた管轄水域は、約448万km²（世界第6位）と広く、国土面積の約12倍となっている。

国土の狭い我が国にとって、排他的経済水域等は貴重な海洋エネルギー・鉱物資源の開発や水産資源の利用を排他的に行える貴重な場となっている。

低潮線は排他的経済水域等の幅を測定するための基線であることから、排他的経済水域等を確実に確保していくためには低潮線の保全が極めて重要となる。

2 職務の特殊性・勤務環境

宗谷港港湾区域内にある低潮線保全区域の人為的損壊行為や自然浸食による形状変化に関する巡視に当たっては、稚内港湾事務所所有の港湾業務艇を宗谷港から約30km離れた稚内港から回航して年4回（6、9、12、3月）海上巡視を実施し、近接位置から低潮線の状況確認を行っているほか、高波浪発生時においては陸上からの巡視を行い、低潮線の保全に努めている。

宗谷港周辺は冬期には日平均気温が氷点下となる上、年間を通して風が強いが、12月の日平均風速は9m/sを超えるなど冬期において特に風が強まる傾向にある。一般的に風速が1m/s速まると体感温度は1℃低下すると言われており、特に冬期間は厳しい自然環境下において稚内港湾事務所職員は低潮線の巡視に努めている。また、低温や強風に加えて吹雪や波浪が伴う気象・海象条件下においては、更に厳しい作業環境となり、肉体的にも精神的にも苦勞が伴う職務となっている。

3 公務の信頼の確保・向上

上記のような肉体的・精神的に厳しい勤務環境の中で、稚内港湾事務所職員は国境に近接した位置にある低潮線の保全に関わる職務を地道であるが着実に執行し、我が国国民の共通の財産である排他的経済水域等の確保に貢献しており、公務の信頼の確保と向上に寄与している。

宗谷港港湾区域の低潮線保全に関する取組状況

我が国は四方を海に囲まれた海洋国家であり、国土面積が約38万km²（世界第61位）であるのに対して、領海と排他的経済水域を合わせた管轄水域は、約448万km²（世界第6位）と広く、国土面積の約1.2倍となっている。国土の狭い我が国にとって、排他的経済水域等は貴重な海洋エネルギー・鉱物資源の開発や水産資源の利用を排他的に行える貴重な場となっている。

低潮線は排他的経済水域等の幅を測定するための基線であることから、排他的経済水域等を確実に確保するためには低潮線の保全が極めて重要となる。

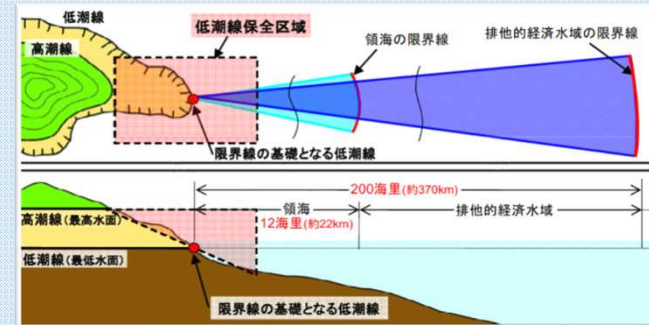
国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所では、宗谷港港湾区域内にある3箇所の低潮線保全区域について、厳しい自然環境下となる冬期を含む一年を通じて排他的経済水域等の基礎となる低潮線の人為的損壊行為や自然浸食による形状変化を海上及び陸上から巡視し、我が国国民の共通の財産である排他的経済水域の確保に努めている。



我が国における排他的経済水域及び宗谷港位置図



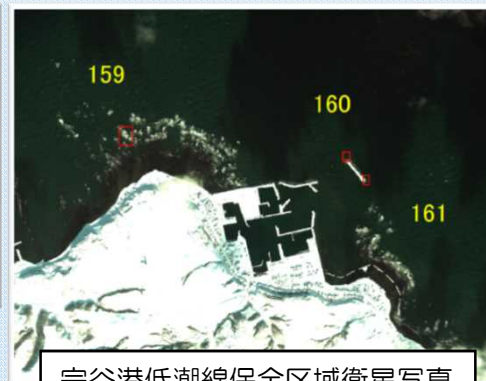
宗谷港低潮線保全区域図



低潮線と排他的経済水域の関係イメージ



政令番号:159



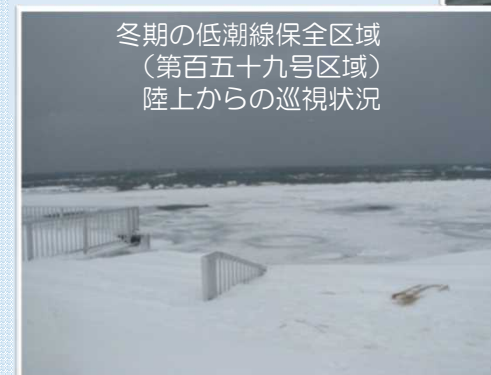
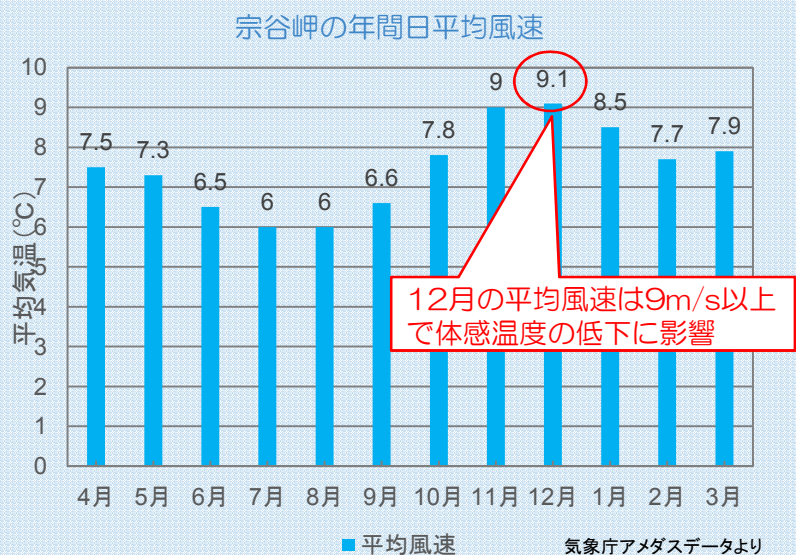
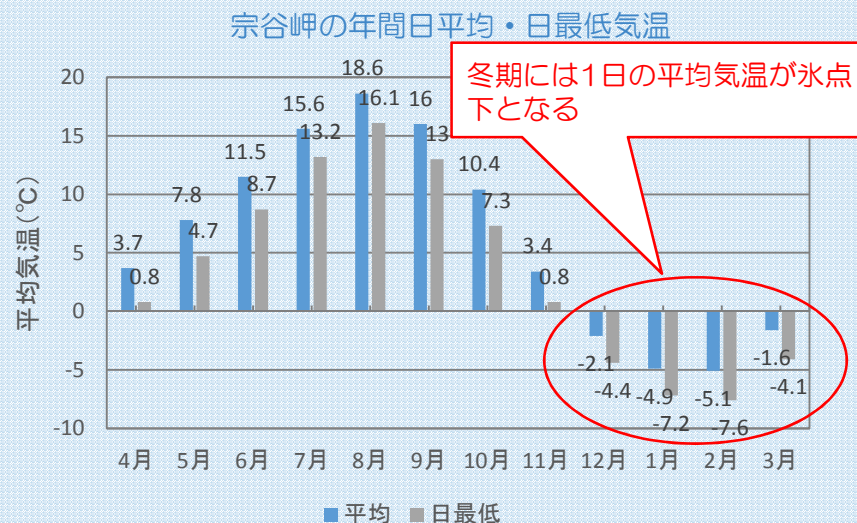
宗谷港低潮線保全区域衛星写真



政令番号:160

政令番号:161

宗谷港港湾区域の低潮線保全に関する取組み状況



平成31年2月7日

平成30年度人事院総裁賞（第31回）受賞者の決定について

人事院は、本年度の人事院総裁賞の受賞者（個人：1名、職域：4グループ）を以下のとおり決定しました。

2月14日（木）11時30分から明治記念館（東京都港区元赤坂）において授与式を行い、その後、天皇皇后両陛下の御接見を賜る予定です。

【個人：1名】

海上保安庁 第一管区海上保安本部
小樽海上保安部 巡視船ほろべつ

かなざわ まさのぶ
金澤 正信（50歳） [北海道小樽市勤務]

現役最高齢潜水土士として、長年にわたり数多くの救助活動に従事するとともに、後進の指導・育成にも積極的に取り組み、海上保安庁のみならず他機関の潜水土士の模範となるなど、公務の信頼の確保に大きく貢献



【職域：4グループ】

国税庁
沖縄国税事務所 間税課 主任鑑定官
[職員数2名、沖縄県那覇市]

沖縄県の伝統的銘酒である泡盛の品質改善や製造技術の向上を図るための技術指導等に積極的に取り組み、泡盛業界の発展に大きく貢献するとともに、泡盛の伝統的熟成技法の継承に資する活動等に参画し文化的側面からも大きく貢献



▲ 平成30年度泡盛鑑評会表彰式の様子



▲ 泡盛の臨場技術相談の様子（もろみ）



▲ 泡盛の臨場技術相談の様子（瓶貯蔵）

農林水産省

九州農政局 [職員数 1, 605名、熊本県熊本市]

平成28年の熊本地震、平成29年の九州北部豪雨と2年連続で未曾有の自然災害に見舞われる中、被災地域の営農再開に向けて各種取組を行ったほか、速やかな復旧・復興を目指す自治体への直接的な支援を迅速に行うなど、被災地域の復旧・復興に大きく貢献



▲ 現地調査の様子(熊本地震)



▲ ヘリ積み込み作業の様子(熊本地震)



▲ 三連水車除去作業の様子(九州北部豪雨)

国土交通省

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

[職員数 15名、北海道稚内市]

厳しい自然環境の中、排他的経済水域の基礎となる低潮線の人為的損壊行為や自然浸食による形状変化を海上及び陸上から巡視することによって、低潮線の保全を着実に執行し、国民共通の財産である排他的経済水域の確保に大きく貢献



▲ 港湾業務艇「りんどう」



▲ 港湾業務艇による海上からの巡視状況



▲ 陸上からの確認状況

気象庁

地磁気観測所 [職員数 30名、茨城県石岡市]

高精度の地磁気観測を100年以上にわたり継続して行っており、太陽地球系の環境監視、航空機及び船舶の安全運航の確保、火山活動評価などで利用される観測データの信頼性の確保に大きく貢献



▲ 火山での全磁力測定(雌阿寒岳)の様子



▲ IAGAワークショップトレーニングの様子

▼ 角度測定器調整作業の様子



人事院総裁賞とは

人事院総裁賞は、多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる職員（一般職の国家公務員）又は職域を顕彰するものです。（昭和63年創設、今回31回目）

受賞者は、各府省等から推薦された候補の中から、選考委員会が選考を行い、その結果に基づき人事院総裁が決定します。

人事院総裁賞選考委員		(敬称略)
(委員長) 佃 和 夫	三菱重工業株式会社相談役	
秋 山 咲 恵	株式会社サキコーポレーションファウンダー	
大 島 ま り	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授	
佐 藤 友 美 子	追手門学院大学地域創造学部教授	
西 木 正 明	作家	
橋 本 五 郎	読売新聞特別編集委員	
箕 輪 幸 人	株式会社テレビ新広島代表取締役社長	以上7名

以 上

問	人事院事務総局	総務課長事務取扱	柴崎 澄哉
合		総務課長補佐(調整班)	小林 義和
せ		電話(03)3581-5311	(内線2105)
先		(03)3581-2772	(直通)

